



海外生活 エッセー

パリ事務所

パリ市の路上駐車政策

(一財)自治体国際化協会パリ事務所調査役 岡山 宏二 (総務省派遣)

パリでは街の至る所で縦列に整然と並べられた路上駐車を見ることができます。筆者は自動車教習所卒業以来、縦列駐車を避けてきましたが、パリジャンのわずかなスペースにぴたりと止める技術や、前後の車を押しながら強引に車をねじ込む大胆さには圧倒されます(何度も切り返して結局駐車を諦める人も中にはいます。)。そのようなパリの路上駐車について御紹介します。

→ 路上駐車の仕事

パリには78万台分の駐車スペースがあるとされ、その約18% (14.2万台分) が路上にあります。路上駐車は料金制で、道路の歩道側、中央分離帯、一方通行の両側などに設けられており、基本は縦列駐車用として、はみ出し禁止線の枠内に駐車できる限り何台でも駐車してよいことになっています。

路上駐車スペースは配達車(livraison)専用、配達車優先(夜間は配達車以外も利用可)、一般用(障がい者用含む)の主に3つに区分されており、ま



一方通行道路(自転車の逆走可)の両側路上駐車。2人乗りの車なら横向きに駐車していることも



一方通行道路(自転車の逆走可。レーンあり)の両側路上駐車。黄色の1本線又は点線は配達車優先(黄色の2本線なら配達車専用)、白の点線は一般用

た、resident(住人)カード、professionnel(業務)カード保有者には割引料金が適用されます。なお、両カードを保有していないvisiteur(ビジター)は2時間までしか駐車できません。

歩道などに設置されている発券機から購入した駐車券は、ダッシュボードなど外から見えるところに置く必要があり、時間超過などした場合は罰金(36ユーロ)が課せられます。

→ 料金などの制度変更

空いてさえいれば目的地のすぐ近くに止めることができる路上駐車は大変便利ですが、2012年までの10年間で2.5万台分が削減され、かつ、8万台分は同じ車が恒常的に利用しているなど、近年、路上駐車スペースが飽和状態であると問題になっていました。

また、自動車排気ガスなどによる大気汚染が深刻化する中、パリ市は自動車利用を抑制するため、今年1月から駐車料金体系を見直し、中心部の1区から11区は1時間4ユーロ、外側の12区から20区は同2.4ユーロに値上げしました。住人については1日当たり1.5ユーロ、1週当たり9ユーロと2.5倍以上の値上げとなりましたが、それでもフランスの他都市に比べて安価であるとパリ市は説明しています。

加えて、夜間無料が20時から1時間繰り下げられたり、土曜日やバカンスシーズンの8月も有料になったりなど、自動車ユーザーにとっては改悪の制度変更と受け止められています。

パリ市の歳入不足を補うための値上げと批判されていますが、電気自動車の駐車料金の無料化など環境に配慮するものへの優遇策も合わせて導入されており、環境面ではめりはりを付けた政策が実施されていると感じます。